

令和4年度 学校関係者評価（結果）

1. 学校関係者評価委員会の開催

日時：令和5年3月20日（月）15:00～15:50

2. 学校関係者評価委員

- 1) 教育に関する有識者：県内大学の准教授
- 2) 高等学校関係者：入学生出身校の校長
- 3) 看護管理者：国立病院機構 看護部長
- 4) 卒業生：国立病院機構 副看護師長

3. 評価内容：令和4年度 学校運営目標に対する実施状況

4. 評価資料

- 1) 令和4年度 自己点検自己評価・自己点検自己評価についての現状と課題
- 2) 学校運営目標に対する実施・評価
 - (1) 卒業時、2年次、1年次カリキュラム評価
 - (2) 学生による科目評価一覧
- 3) 学生によるカリキュラム評価
- 4) 卒業生保護者によるカリキュラム評価

5. 学校関係者評価委員による主な意見、課題（抜粋）

1) 運営目標ごとの意見、課題

1. 教育の質の向上を図る

- ・教育理念の改訂で、職員・学生の向かう方向が分かりやすくなった。
- ・3合同カリキュラムの改善と実習指導方法の検討を継続的に実施していることは評価できる。
- ・3校合同カリキュラムを実施する意義は課題もあるが、指導者の資質向上には大きな成果が得られると思うため、指導内容の共有化、スキルの向上等、実情に対してより良い方法の検討をされ、継続されることを期待する。
- ・オンラインを活用しながら、教育の質の向上を担保し、国家試験の合格率の維持や個に応じた指導を継続し、さらに経費の削減に着手した点は評価できる。
- ・評価に関して、個人内評価に正当性をもたせるために、ルーブリックを用いてはどうかと考える。

2. 学校経営基盤の安定を図る

- ・学生の質保証のためのスクリーニング（令和5年度入学生から定員削減）はあ、評価できる点がある。しかし、「入口」の改革後は、その過程の教育と「出口」をどのように改善していくかも問われるアーリーエクスポージャー（早期体験学習）の観点からも、引き続き学校経営の充実を図っていただきたい。
- ・入学した学生が、3年間退学することがないことが、経営の安定を図ることの一つでもある。そのための対策がとれると良い。受験生数確保のための対策はよくされている。
- ・本学で学んだ学生が、出身校（高校・中学）で「先輩から学ぶ」と題し、出向いていくことも効果の一つと考える。

<p>3. 社会人としての自覚を高め、主体性及び協調性を養うよう支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師としての能力・資質に併せて「社会人基礎力」（経産省）を養うことが、今とても必要出ると考える。「自分を美しく鍛える」「躰(しつけ)」の大切さ、所作・・・、指導者の姿が範となるように。 ・コロナ禍においても Web 等で、他学校との交流を深めており、工夫されていた。 ・「after コロナ」が見えてきた今春、3年間のコロナ禍において一番実施が困難であった点、つまり地域住民などとの異文化交流かつ国際交流をどのようにシステム再構築をしていくかが課題となる。新しい行事や教員・学生間の人間関係構築のためには、このような体験型学習を大切にしていきたい。
<p>4. 教員としての能力開発に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続してオンラインによる様々な研修へ参加しながらも、新人教員のフォローを実施している点は評価できる。 ・研究について、指導者に助言を受けながら実施できていた。 ・教員の研究力のための時間や機会の保障が課題となっている。専門職の能力開発には時間を要するため、今後の課題として進めていきたい。 ・教員(指導者)は、それぞれ使命感と責任感があり、そのためには職員間に「情報連携」「役割連携」「行動連携」の意識統一が徹底している必要がある。
<p>5. 学習・生活環境の充実に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク環境を整え、授業がスムーズになったことはよかった。 ・学校内及び学生寮については、計画的な改修ができると良い。 ・コロナ禍で構築した基盤をもとに、学生たちのオンライン学習環境や生活の質向上に努めている。 ・非常にきめ細かく、行き届いた環境づくりに努めている。学習環境でいえば、図書の実践は大切である。学習・学力の向上を図る意味でも整備していくことに努めてほしい。

2) 令和4年度、看護学校に取り組んでほしい課題

(1) 中間評価の活用

評価には「assessment（査定＝形成的評価）」と「evaluation（評定＝総括評価）」の側面があるため、この学校評価も簡易的な中間評価会が実施されながら、複眼的かつ系統的に評価システムを構築していただきたい。

(2) 学生たちの感性や社会性、そしてレジリエンス能力の育成

様々な学校行事や地域との交流の場＝体験学習を再考していただきたい。